

無名峰 909m

イチゴ谷山の南のピーク

ポンポン山雑感

地形図「久多」

2017年12月4日(月)

三鍋敏郎

久多上の町と中の町の間地点にある久多川に架かる橋を渡った空き地に車を停める。国境尾根にあるピーク 865mから南西に延び標高 550m辺りで西に向かう尾根に取り付く。取り付きには踏み跡があり、それに従うがすぐに害獣避けフェンスがあるが簡単に開けられる。暫くはヒノキやアスナロの植林地。関電の送電鉄塔辺りで自然林となる。思った以上に歩きやすい尾根で、巡視路にも使われているのかはっきりとした道がある。鉄塔を過ぎると踏み跡はやや不明瞭となるが、障害もなくイワカガミの群生とモミの木や自然林の快適な尾根が続く。

広く穏やかな国境尾根に乗ると冬枯れの自然林が気持ち良く広がっている。ここから進行方向は北向きに変わる。P 865mで休憩。比良山系が見え、蓬莱山の人口雪が白く輝いている。

P 865mを下ると送電鉄塔があり辺りの木々が伐採され展望が開けている。送電鉄塔を過ぎるとやや急斜面の登り。登りきると再び穏やかな尾根に出る。今日歩いたコースは意外にブナが少ないのは何故だろうと考える。気象変動による自然淘汰だろうか。

909mはやはり無名峰だった。無名峰でよく見かける小さな木札が掛っている。909mから 890mに向かう。909mと 890mの鞍部にブナの巨木が点在する。残念ながらこの近辺で最大級のブナは倒壊し無残な姿である。

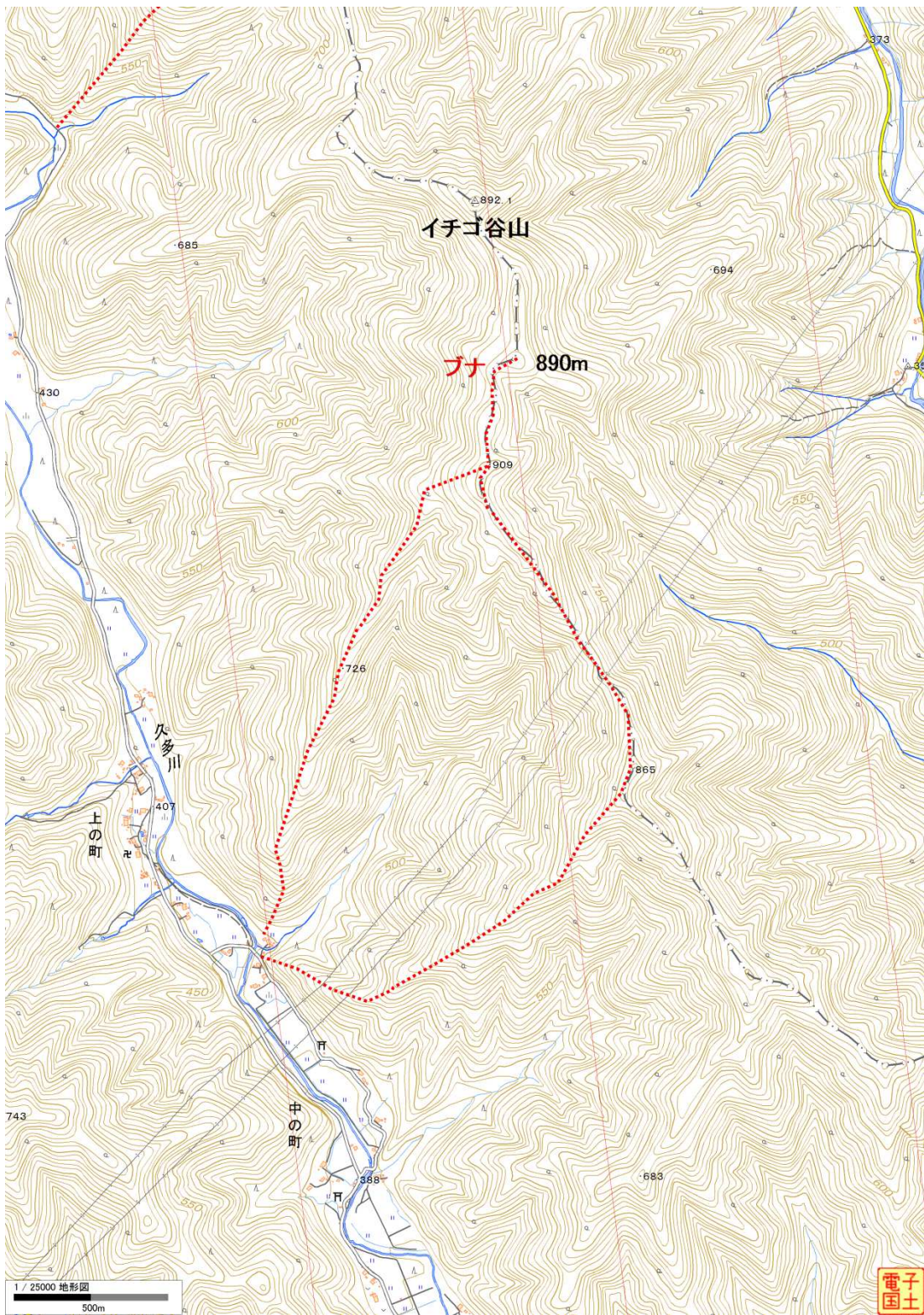
890mの手前にはハウノキの元気な巨木がある。890mの山頂は展望が少ない。北にイチゴ谷山の雄姿が見える程度である。890mの西北側下部に大きな窪地があり、水が湧いているので獣たちの楽園であり、早春には様々な植物が見られるのではないだろうか。

山頂から 909mに引き返す途中で大きなオオウラジロの巨木と出会う。安蔵山で見た巨木に匹敵する大きさだった。オオウラジロの木は不思議と群生は無く、森の中で孤独に存在するのは何故だろう。どの木も大量の種を落としているが、近くに幼木を見たことがない。この果実は熊の大好物なので、彼等の行動距離に比例しているのだろうか。

909mから西に膨れる尾根に乗る。斜面を下り、広い尾根を西に向かう。南西方向に伸びる痩せ尾根を見つけて歩く。花芽をつけたタムシバが多いので、春には賑やかな尾根歩きができそうである。P 726mを越えて一直線に下る。途中小ピークがあるが自然林の楽しい尾根が続く。イワカガミの群生地が広大なので早春は楽しめるだろう。標高 570m辺りで尾根の方向が少し変わる。植林地の急斜面を下ると民家の横に出る。害獣避けのフェンス沿いに下ると、朝に取り付いた尾根とここで合流する。

★コース 登山口 8:50～868m 10:00 発 07～909m 10:45 発 51～890m 11:04 発 11:10
～909m 11:25～登山口 12:41

★メンバー三鍋・ほか1名



イチゴ谷山

ブナ 890m

久多川

上の町

中の町

1 / 25000 地形図
500m

